

## いきいき協働事業評価シート

担当課用(環境保全課)

## ○ 協働事業の概要

記入年月日 平成25年5月7日

事業名	バイオディーゼル燃料等、自然エネルギー活用推進のための調査研究事業 (いきいき協働事業)
団体名	こだいら菜の花プロジェクト
担当課名	環境保全課
事業期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

①地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

地域エネルギービジョンにおいて、バイオディーゼル燃料(BDF)の精製、利用に関するシステムの検討を施策として掲げており、本事業を実施した結果、BDFについての啓発が図られたほか、新たに商店街等からBDF製造販売業者へ廃食用油を回収依頼したり、農家で農耕車に使用するなど、精製、利用のシステムが構築されつつある。依然として課題は多いものの、今後の活用に向け、市民団体の地域に向けた取組が大いに期待できる。

②団体の長所を、発揮させることが出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができましたか。)

施設見学において、他市との調整や、講演会でのチラシの配布、農家へのアンケートなど、効率的な役割分担によって協力・支援を率先して行った。市は団体が事業を進めやすいように、フィールドを作ったり整備したりすることを意識して事業を実施できた。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

事業の共有を図るため、メールでの連絡を頻繁に取り合いながら、必要に応じて打ち合わせを行うなどし、お互いの役割を理解し、過度に依存することなく、事業を進めることができた。

④改善提案がありますか。

今回の事業では、以前から関わりがある団体との協働だったので、事業を進めやすかったが、全く関わりがない団体の場合、コミュニケーション等含めて事業実施の難しさを感じる。

自由記載欄

単年度事業ではあったが、今後も支援できるところは継続していきたい。